

## 令和6年度 第2回岐阜県家庭教育推進委員会 議事録要旨

1. 開催日：令和7年2月13日（木）
2. 場 所：県庁301会議室
3. 参加者：（委員の現在数10人 出席者8人）

<委員>	岩田 良 委員	<事務局>	森 信輔 課長
	小川 弘美 委員		安藤由美子 生涯学習企画監
	西脇久美子 委員		片岡 留美 係長
	堀田 友邦 委員		若森美恵子 課長補佐
	松井 徹 委員		
	宮田 慶美 委員		
	渡辺 由紀 委員		
	森 秀之 代理（今津友紀子委員）		

### 4. 報告

松井委員長：報告事項について事務局より説明いただく。

<事務局報告>：令和6年度家庭教育支援施策の取組み実績について

<山縣市報告>：高富中でスマート連絡帳からロゴフォームへ誘導するアンケートを実施した。表面化しにくい意見が聞けたことが効果あった。

松井委員長：ご質問、ご意見はいかがか。企業内家庭教育研修について企業の立場としてはいかがか。

岩田 委員：関心のない人にどう機会を与えるかということが大事で、企業としてもそういう場をつくっていくことが必要だと感じる。

西脇 委員：学校の取組みの温度差を解消したい。ICTの遅れが本校の課題ととらえるが、確実に家庭に届くツールとして学校便りのデジタル化に取り組んでいる段階である。現在 YouTube で配信されている動画は、家事をしながらでも視聴できる。そういった活用方法や新たな教材も啓発していきたい。研修はオンデマンド配信、講師のデータベース化もできるとよい。実施に向けて、まず、教員の意識を高めたい。

事務局：講師リストは各県事務所の専門職が作成し、照会に対応している。他に、県のHPで生涯学習の講師情報を公開しており、そちらも活用いただける。

岩田 委員：過去にPTAの研修の講師について相談を受けた。合同PTA総会にて著名人を招聘、開催し、好評だった。時にはお金をかけて学びの機会をつくることも必要だと考える。

森 代理：PTAの役員を廃止する学校が増え、活動の継続が難しい状況。補助金を交付し、活性化をねらったが、申請は少ない。学校に負担をかけずに、必要な情報を家庭に届けるにはどうすればよいか悩んでいる。

松井委員長：学校運営協議会等、学校と地域をつなぐ組織はあるか。

森 代理：学校運営協議会は市内1校のみ。他校には評議員はおり、地域とのつながりはあるが、家庭教育の課題を協議するまでには至っていない。

西脇 委員：学校運営協議会は広がっていく見込み。家庭教育学級をはじめ活動として

なくせないものを吟味し、PTA の在り方を検討した経緯はあるが、今後、学校の負担が増える心配はある。

松井委員長：県内各地で旧来の組織に統廃合の動きがあり、家庭教育学級の運営主体について議論されている状況がある。

渡辺 委員：公立園の県 PTA 組織への所属は 21 園のみとなり、県の総会や研修の負担も増したため、講話は YouTube 配信に、アンケートも紙媒体からロゴフォームに変更した。ただ、県の PTA 組織は 7 年度に解散の方向。市町村での研修は継続することを確認したところ。園長会の組織の中に、家庭教育に係る連絡会の機能を残す。

## 5. 議事

松井委員長：議事について事務局より説明いただく。

<事務局報告>：家庭教育動画コンテンツの提供について

松井委員長：ご質問、ご意見はいかがか。

松井委員長：特設サイトはワンクリックで様々な情報が得られてよい。来年度、デジタル学校便りで広報するとよい。ブラッシュアップした動画は乳幼児には難しいが、中学生以上なら内容が理解できると感じる。

堀田 委員：家庭教育の言葉すら知らない保護者にはよいツールだが、このサイトまでたどり着くのが難しい。YouTube 等、多くの人の目にとまる広告で広報できるとよい。

宮田 委員：高校生でも学べる動画となっている。保護者にとっても情報を知る機会となる。高校生は、今後人生設計を行う時期であるため、家庭科はライフデザインを重視する方向である。

小川 委員：乳幼児学級等に参加する母から、父親と一緒に参加したかったという声を聞く。短く、家庭で視聴できる教材は有効。YouTube 配信した動画を後に学びの場で活用したという意見も聞く。

松井委員長：様々なご意見をいただいた。以上で協議を終了する。進行を事務局にお返しする。